

厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患等政策研究事業（難治性疾患政策研究事業））
分担研究報告書

VIII/8因子抗体症例の鋭敏かつ包括的なスクリーニング検査法の有用性の検証

研究分担者 橋口 照人 鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 教授

研究要旨

VIII/8因子抗体症例の出血症状は重篤であり致死率も高い。集積した症例検体を利用して、鋭敏かつ包括的なスクリーニング検査法の有用性を検証した。

A．研究目的

VIII/8因子抗体症例は、これまでは希少とされているが、超高齢社会となった我が国では次第に症例数が増加しつつある。その症状は重篤であり、生命の危機に瀕する可能性が高いため、その総合的な診断基準・重症度分類・診療指針等の整備を目的として、鋭敏かつ包括的なスクリーニング検査法の有用性を検証した。

B．研究方法

イムノクロマトグラフィーの試作品を用いて、VIII/8 因子抗体を有する症例の血清との反応性の基礎的検討を試みた。

（倫理面への配慮）

鹿児島大学病院臨床研究倫理審査委員会の承認を得た。

C．研究結果

山形大学にて検体の収集は順調に行われた。補足抗体として候補に挙がった4種類の抗体を用いたイムノクロマト法の試作品を用いて、山形大学にて収集された6症例のVIII/8因子抗体症例の血清に対してその反応性を評価した。自己抗体の検出には成功したが、特異度に問題を残す結果となった。

D．考察

本邦におけるVIII/8因子抗体症例の発生は医中誌に2018年に報告された数だけでも42件に及ぶ。従ってその鋭敏かつ包括的なスクリーニング検査法を確立することの意義は大きい。今回の検討において、イムノクロマトグラフィーによる簡易診断は可能であることが示された。臨床応用への実

現を目指して、感度、特異度の更なる改良を進めていく必要がある。

E．結論

VIII/8因子抗体症例の背景にある様々な病態（自己免疫疾患、悪性腫瘍、炎症など）に対する非特異的反応の検討とその対処法を確立して実用化への検討を継続する。

F．健康危険情報

なし

G．研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H．知的財産権の出願・登録状況

（予定を含む。）なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし